

〈高岡市の皆さまへ〉 チェンジのための政策提案

後援会ニュース

Vol.35

出町 ゆずる

チェンジ！ 市民いちばんの政治へ

190回を超える対話集会を重ね、市民の皆さんの「高岡愛」、この地への誇りと愛着に何度も触れてきました。

「このまま衰退する姿を見るのはつらい」という想いは私も同じです。離れていても、心はいつも高岡にありました。離れていたからこそ、見えるもの、できることがあります。

「現状を変えたい!」の一心で、市長選に挑戦し、そして議員としても活動してきました。

今こそ改革、チェンジの時。

しがらみのない政治で財源を生み、教育・福祉・公共交通などに再投資し、「住みたいまち・高岡」を実現します。

私、出町ゆずるは市民とともに、このまちの未来を変えていきます。

市民直接
対話



震災復興
対策



子育て
支援



公共交通
改革



政策のより詳しい
内容はこちらから▶





出町ゆずるの4つの強み



1 聴く力、把握する力

街頭に立った回数1,100回以上、対話集会190回以上。どんなときも市民の声に耳を傾け、言葉の奥にある想いを受けとめてきました。記者としての経験が、現場を丁寧に見つめる力につながっています。



2 全国ネットワークの力、政策立案力

記者時代の現場取材体験が、実感に基づいた発想を生み出します。全国の市町村から国レベルの行政、学識者・経営者など、多方面の識者とのネットワークを活かし、実現可能な政策を立案します。

市議時代の実績

私が市議時代に実現したこと
(行政とともに形にできたこと)

実現
1

お花見や買い物にも使えるように — 福祉車両タクシーの利用範囲を拡大

以前は、病院や福祉施設への送迎に目的が限られていた福祉タクシー助成。

でも、私の元には「お花見に行きたい」「買い物にも使いたい」という声がたくさん届きます。「外出は、元気と健康の源!」の信念から、私はその声を市に届け、行政の皆さんの理解を得て、2022年度から制限をなくすことができました。「やさしい高岡」にむけた大きな前進です。



実現
3

カラスを減らした — 通年の捕獲体制を実現

「古城公園のカラスが多くて困っている」という市民の声を受け、私は2021年12月の議会で捕獲用の檻の増設を求めました。市はすぐに対応しましたが、なかなか効果が出ません。私は、古城公園で自分の目で見て、当局の捕獲データも確認した結果、3～5月の繁殖期に捕獲を休止していることに気づきました。それが効果の出ない理由と考えた私は、23年10月の産業建設常任委員会で連続捕獲を提案しました。翌年度にそれが実現し、24年4～11月の捕獲数は572羽と、前年度(1年間で320羽)を大きく上回る成果をあげました。他の対策もあいまって、「カラスが減った」との市民の声も増えてきています。



3 決断力・実行力

やるべきことを見極め決断し、時には大胆に、時にはコツコツと取り組む力があります。テレビ局時代に身につけた段取り力やスピード感を活かした実行力で、まちに確かな変化をもたらしていきます。



4 発信力

事実を正しく、わかりやすく伝える力は誰にも負けません。うまくいったことも、うまくいかなかったことも、きちんと共有しながら、市民の皆さんと一緒に前に進んでいきます。

実現

2

壊させなかった — 旧平米小学校を教育施設に転用

平米小学校は、2022年3月に閉校しましたが、その校舎は築22年と新しく、冷暖房や耐震設備も整っている状態でした。にも関わらず、市は、国の支援が得られるという理由で「解体・売却」しようとしていました。それを惜しいと思った私は、総務省に出向き「他の用途への転用でも国の支援が受けられる」ことを確認し、このことを同年12月の定例議会で直接訴えました。その後、**市の教育委員会にもご理解いただき、教育総合支援センター（仮称）として活用する方針となりました。行政とともに地域の財産を未来につなぐ道を開くことができたのです。**



実現

4

情報をつないだ — 子ども宅食を、高岡で実施



経済的に困っている家庭にお弁当や日用品を届ける「子ども宅食」。

コロナ禍の2022年1月、厚生労働省が「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業」として子ども宅食の支援を発表しました。旧知の国会議員からこの情報をいただき、以前お世話になった「オタヤこども食堂」の皆さんに伝えたところ「ぜひやりたい」とのこと。**地域の方々や市役所の子ども・子育て課の職員さんらの理解と協力も得て、地元のお弁当屋さん、子育て家庭、たくさんの皆さんに笑顔を届けられました！**

健全な市政へチェンジ

市民主体のまちづくりへチェンジ

これまでの皆さんとの対話により、市の考えや動きが十分に伝わっていない、市民の声が市に伝わっていないことに気づきました。お互いの考えを言う、聞く、受け止める。市民との徹底対話で市民と行政の距離を近づけ、信頼しあう関係をつくりまします。また、市民の皆さんが、「高岡をよくするために意見を言いたい」、「まちづくりに参加したい」と思われていることも強く実感しました。市民同士での対話が盛り上がる環境をつくり、市民主体のまちづくりを進めていきます。



約束

1年間に12回の市民との直接対話を約束します。

税金の使い方を、抜本的にチェンジ

私は、税金を通じて市民が支え合い、よりよい社会を築くことこそが政治の役割だと考えています。みなさまから預かった税金は、市民をいばんに考え、「住みたいまち・高岡」のために使います。中でも、大型施設の建設、土地購入など大型の予算を立てる時には、「プロセスの公開と慎重な議論」を第一に考えます。事業開始後は、進捗状況や効果を客観的に評価します。よい事業はより効果的に伸ばす、うまくいっていない事業は原因を探り、ときには「やめる」という決断も思い切ってやっていきます。



用語解説

※1【大学生奨学金制度】	高岡市には、大学等の進学を支援する奨学金があります。この受給生やOBOGの縦横のつながり、高岡とのつながりを強化することで、もっと高岡を好きになってもらい、県外にいてもそれぞれの活躍の場で高岡を応援してもらうことを期待します。
※2【定額タクシー】	時間帯、エリアなど一定の条件内で、定額乗り放題とするタクシー。
※3【デマンド交通】	事前予約によって柔軟に運行される交通システム。
※4【ビジネスサポートセンター】	経営の専門家が、新規事業立ち上げ、広報、賃上げ、採用、事業継承などさまざまな相談に、並走して支援します。
※5【アルミアップグレードリサイクル】	高い品質のアルミへのリサイクル。富山大学先端アルミニウム国際研究センター（高岡市）において、最先端のリサイクル技術が研究されています。
※6【データセンター】	企業や行政のデジタル情報を安全に保管・管理する施設。IT時代に不可欠のインフラであり、大規模な施設、大量の電力、災害に強い立地などが求められています。
※7【一時生活支援】	一定の住居を持たない生活困窮者に、宿泊場所や食事などを提供し自立を支援する事業。DV（家庭内暴力）など家庭内の問題や災害から逃れるためのシェルター事業も含まれます。

出町ゆずるの**実現**したいこと

1 | 第一に進める「震災復興と防災」

●「未来につなぐ復興会議」と「今に寄り添う対話の場」を創設します

「復興会議」に、住民の希望、専門家の知見、市全体の熱意を集結させ、次の時代に向けて前に進みましょう。住民の抱える不安や課題を一つ一つ解消する「対話の場」は、地域コミュニティの場でもあります。



約束

液状化対策の維持管理費、地元住民負担をゼロにします。

●「避難行動要支援者」全員の「個別避難計画」を目指します

その地域の災害リスクを皆で確認し、協力して思いやりの気持ちで個別避難計画を立てるとい取り組みそのものが、**防災コミュニティとして地域のつながり強化**につながります。



2 | 高岡を未来につなぐ「子育てと教育」



約束

全0歳児へのおむつ券支給（在宅育児支援）を開始します。

●出産前から思春期まで切れ目なく、子育てを全力で支えます

経済面で第二子保育料の完全無償化をはじめ、第一子保育料や小学校副教材費の支援、おむつ券支給（在宅育児支援）などに取り組むほか、子育てと仕事の両立支援のための、保育園・学童保育の定員増や預かり時間延長を進めます。また、心理面でも誰一人とり残されないケアサポートを目指します。



●「一人ひとりにちょうどいい学び」を積極的に推進します

タブレット端末やパソコンの活用、プログラムの工夫などにより、**一人ひとりの理解度や個性に応じた教育**が受けられるよう尽力します。様々な理由から登校が難しくなった子どもたちも、いきいきと自分の人生を歩めるよう、一人ひとりに寄り添ったきめ細かい支援を行います。芸術鑑賞の機会を増やすなど、感性教育にも力を入れます。



●地元での学びの場「高岡公立大学」の設立を検討します

年々増加する地元志向、地方志向の若者に学びの場を提供するため「高岡公立大学」の設立を検討します。また、既存の**大学生奨学金制度**^{*1}を拡充するとともに、県外の大学に進学した学生と高岡とのつながりを強化する工夫を施します。

「住みたいまち・高岡」へ

3 | 市民にやさしい「公共交通」

●全世代の利便性向上のため、行政主導で改革します

通学・通勤などの生活に不可欠な路線、病院や買い物など高齢者にやさしいコミュニティバス、定額タクシー^{*2}などの実現のため、行政が主導し、市内全体の利便性を向上させる**公共交通の大改革**に舵を切ります。



●新しい技術を活用した「次世代交通」の可能性を検討します

古城公園や駅を拠点とした**観光周遊バス**、高岡駅新高岡駅間を結ぶシャトル交通、**デマンド交通**^{*3}を用いた市民交通など、次世代交通の実証実験にも積極的に取り組み、導入を検討します。



4 | 高岡を誇りある、豊かなまちへ「産業支援と観光」

●さまざまな産業分野で積極的に支援、誘致をします

市民の賃上げや、女性・移住者採用など、企業のあらゆる相談に対し並走して支援する「**ビジネスサポートセンター**」^{*4}の設立を検討します。アルミアップグレードリサイクル^{*5}の拠点化、データセンター^{*6}や企業誘致のための工業団地の増設、伝統工芸のブランド化や世界への発信などさまざまな分野の発展に力を入れます。また、農業分野では、農業基盤を守り、高岡の豊かな土壌と水、農村風景、そして食を守ります。



古城公園の史跡価値向上事業を大幅に前倒して実施します。

●市民の誇り「高岡古城公園」「二上山」の整備を加速します

古城公園の30年整備計画について「**城跡としての価値**を高めるための事業」を最優先で推進します。整備工事中の、美観や憩いへの配慮も怠りません。二上山、勝興寺、伏木の史跡などについても、歴史資源の価値を磨き上げ、未来につなげます。

●歴史資源、絶景スポットをつなぎ、周遊観光を強化します

古城公園を中心して、高岡大仏、山町筋、金屋町、瑞龍寺などを観光客が気軽に楽しめるよう、**観光周遊バスの導入**を検討します。雨晴海岸、勝興寺、伏木地区の大型バス駐車場整備など、アクセス向上に取り組めます。



5 | 安心をいつまでも「医療と福祉」

●持続可能な地域医療システムを構築します

医療システムを持続可能にする生き残り策は、市内の総合病院が**機能分担し、役割分担を明確に**することです。そのために市がしっかり主導していきます。また、身近なかかりつけ医から高度医療、在宅医療・リハビリまで、切れ目のない「地域に根ざした医療」の維持・強化を進めます。

医療の
役割分担



●あたたかみある福祉が充実するまち、「やさしい高岡」へ

障がい者・障がい児福祉の充実、「孤独死ゼロ」のための見守り、生活の自立を支援する**一時生活支援**^{*7}などに力を入れます。どんなことで当事者になるかわからないからこそ、誰もが自分らしく生きられる社会の実現をめざし、取り組んでまいります。



6 | もっともっと魅力的な高岡に「みんな笑顔」



●どの地域に住む人も、住んでよかった「みんな笑顔」に

旧校舎や土地公社所有地など地域の行政財産の利活用や、地域それぞれの祭りの支援など、**各地区の誇り・利便性向上**のために取り組みます。特に郊外地域については、**最寄り駅までの路線バス、融雪・除雪体制**などの地区ごとの課題にしっかり向き合います。

●あちこちで、市民同士の対話が盛り上がる、コミュニティづくり

同じような活動をする仲間たち、同じ悩みを抱える住民同士など、さまざまな場での対話や連携が、高岡をよくしていきます。多様なテーマの定期講座やワークショップを市が開催し、その受講生や卒業生たちが**自立的にコミュニティを作る**、そういった支援も行います。

●結婚を希望する若者を応援します

結婚を望む若者が高岡市で家族をつくり、幸せな生活を送ることができるようサポートします。**出会いの場の創出、結婚後の生活支援、相談体制の整備**などの支援策を展開します。



●若者・子どもの声を市政へ～若者議会の設置～

地域のことを自分ごととして考えることは、政治への関心を育み、次世代を担う人材の育成につながります。そして、それをみた大人も子どもも**「自分たちで社会を変えられるんだ、作れるんだ」**という気持ちに変わります。この仕組みを、高岡に取り入れていきます。



応援メッセージ



コミュニティハウス「ひとのま」代表 宮田隼さん



私は不登校・ひきこもり・生活困窮などに対する活動を行っています。出町さんは日頃から関心を持ち、時に一緒に考えてくれました。この高岡に確かにある社会課題にこれからも取り組まれることを期待します！



「オタヤ子ども食堂」代表 高沢満里子さん

子ども食堂を始めたばかりの10年前は理解されず、支援も無く、無我夢中でした。そんな時に出町さんから国等の助成金の情報を教えてもらい、力添えがあり、非常に助かりました。これも中央とのパイプの賜物と感謝しています。

株式会社ZORGE 代表取締役 堺谷陽平さん



前回の市長選、市議活動を経て、出町さんの高岡に対する想いは凄いなと感心させられ、その逆風に立ち向かうような姿勢は、eスポーツという未開の分野で起業した自分にとっても、大変刺激になります。頑張ってください！



株式会社能作 会長 能作克治さん

今の高岡に必要なことは有効なPRと文化を磨き上げていくこと、そして強いリーダーです。高岡には出町さんのような市民の意見を聞き決断していくリーダーが必要です。みんなで明るい高岡の未来を作りましょう！

出町ゆずるプロフィール

1964年 富山県高岡市生まれ。
成美小、志貴野中、高岡高、早稲田大学政経学部卒業。
時事通信社を経てテレビ朝日で報道記者。故郷の高岡再興を決意し、帰郷。
2021年7月 高岡市長選に出馬し、落選。同年10月 高岡市議会議員選挙に当選。新会派「高岡愛」を結成。
経済人の評伝のほか、地域再生に関する著作多数。
2015年5月～2018年12月、北日本新聞にて「現場発!ジャーナリストが見た地方創生」を毎月連載。



出町ゆずるチャンネル

出町ゆずる で YouTube検索!

出町本人が高岡市の課題や自身の政策をみなさまにわかりやすく説明する動画をYouTubeで配信しております。



QRを読み取ってチャンネル登録▶



限りある資源を大切にするため、郵便等によるご案内を極力削減する努力を行っています。

QRを読み取って友だち追加▶



出町ゆずるLINE公式アカウント登録宜しくお願いします